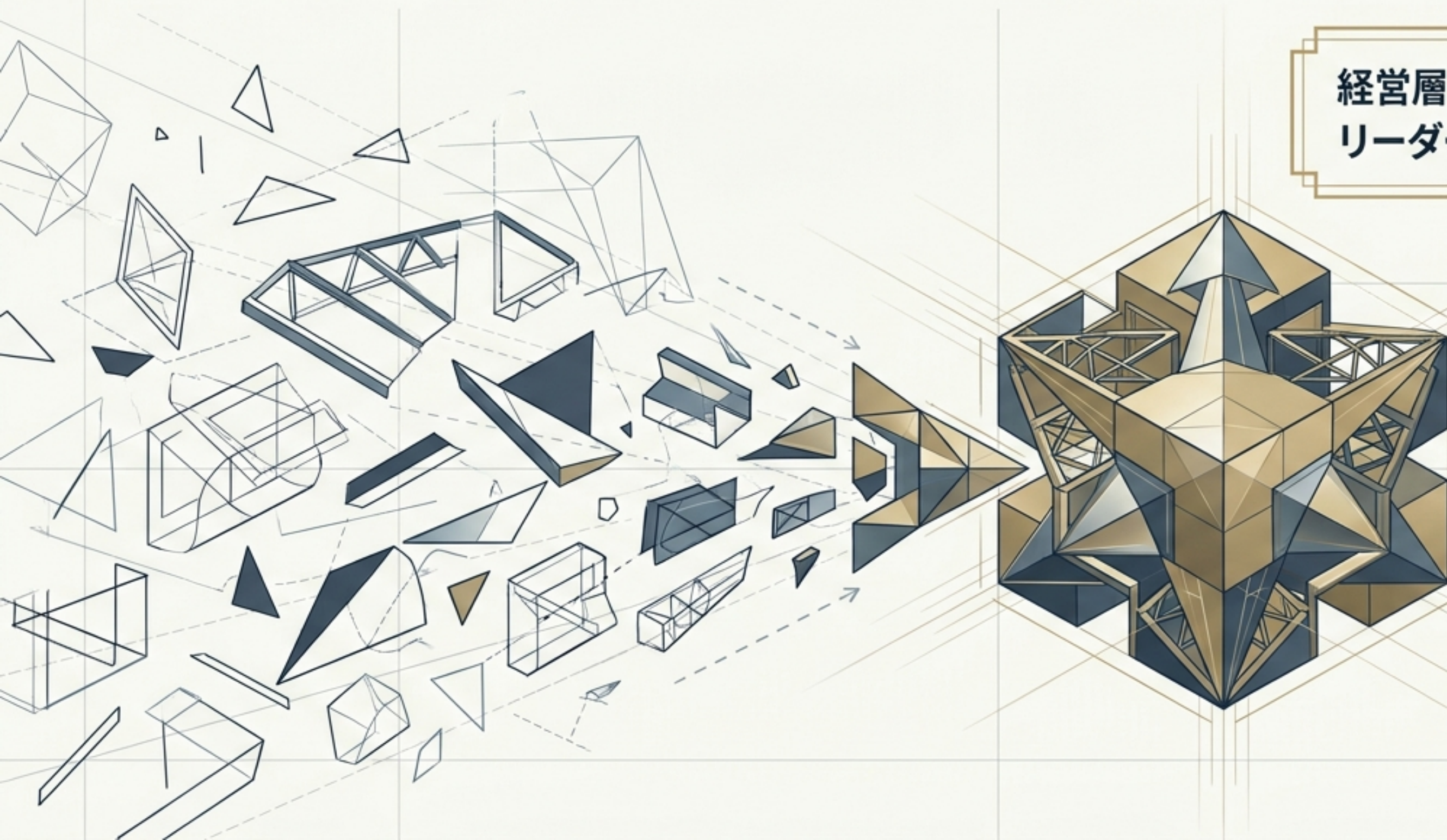


暗黙知の結晶化がもたらす知財DXの構造的変革

NTTデータが主導する、知的創造サイクルの高度化と新たな産業的インパクト

経営層・知財戦略部門・研究開発
リーダー向け戦略ブリーフィング



2026年

エグゼクティブ・サマリー：知的資本創出のプロセスを再定義する

【課題】 構造的断絶

開発現場の「技術的工夫」と知財部門の「権利化要件」の間に存在する言語・優先順位のギャップ。これが年間数十万件の「休眠特許」を生む根源。



【解決策】 対話型AIエージェント

NTTデータが提供する伴走型AI。発明を「自動生成」するのではなく、研究者の暗黙知を引き出し、知財部門が評価できる標準形式へ「翻訳・構造化」する。



【インパクト】 知財の戦略的ピボット

事務的確認作業を根絶し、知財部門を「IPランドスケープの設計者」へ。無駄な出願を防ぎ、オープンイノベーションと企業価値向上へ直結させる。

構造的断絶：「発明」が迷い込む研究開発と知財部門間の深い谷



マクロ的損失：事業に活用されない160万件の「休眠特許」

約160万件（国内保有特許数）のうち、約半数が「休眠状態」



休眠特許が発生する根本原因

出願の最上流（入口）において、事業戦略や将来の市場ニーズとの紐付けがなされず、自己満足的なアイデアのまま権利化が進むことによる構造的欠陥。

イノベーションの空洞化と、
維持コストによる企業価値 (ROI) の圧迫。

伴走型AIエージェントによる発明発掘プロセスのパラダイムシフト

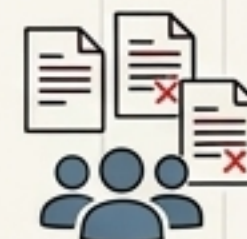
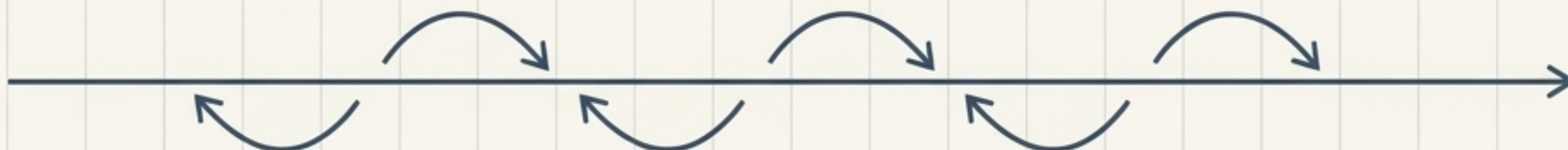
NTTデータ：AI活用型・発明発掘支援サービス（2026年8月19日発表 / 10月本格展開）

従来：一方通行の文書作成

開発者が孤独に書式を埋め、知財部が赤字を入れて差し戻す疲弊のサイクル。



開発者



知財部

新常識：AIによるインタラクティブな翻訳と伴走

AIが「技術の価値」と「特許要件」の中間的パートナーとして介在。生成 (Generation) ではなく、暗黙知の構造化 (Structuring) を実行する。



談発知識

技術の価値



AI ケント

特許要件



特許要件



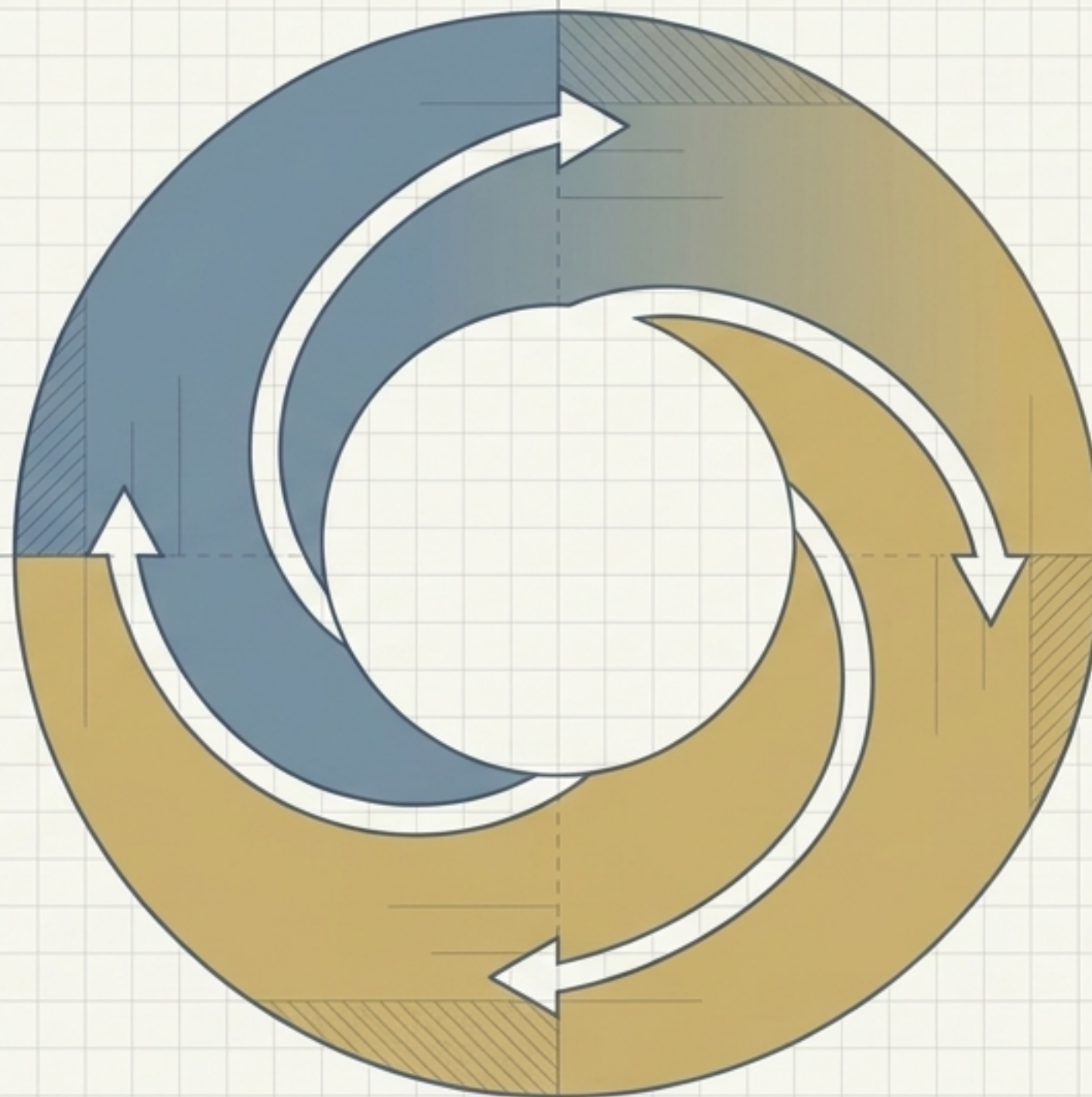
思考のフライホイール：AIとの対話が断片的な暗黙知を構造化する

インプット (Input)

研究者からの断片的な実験データ、ソースコード、定性的なメモの投入。

再構成 (Structuring)

抽出された技術的工夫・構成・効果を、知財部門が即座に審査可能な「標準的な発明提案書形式」へ即時変換。



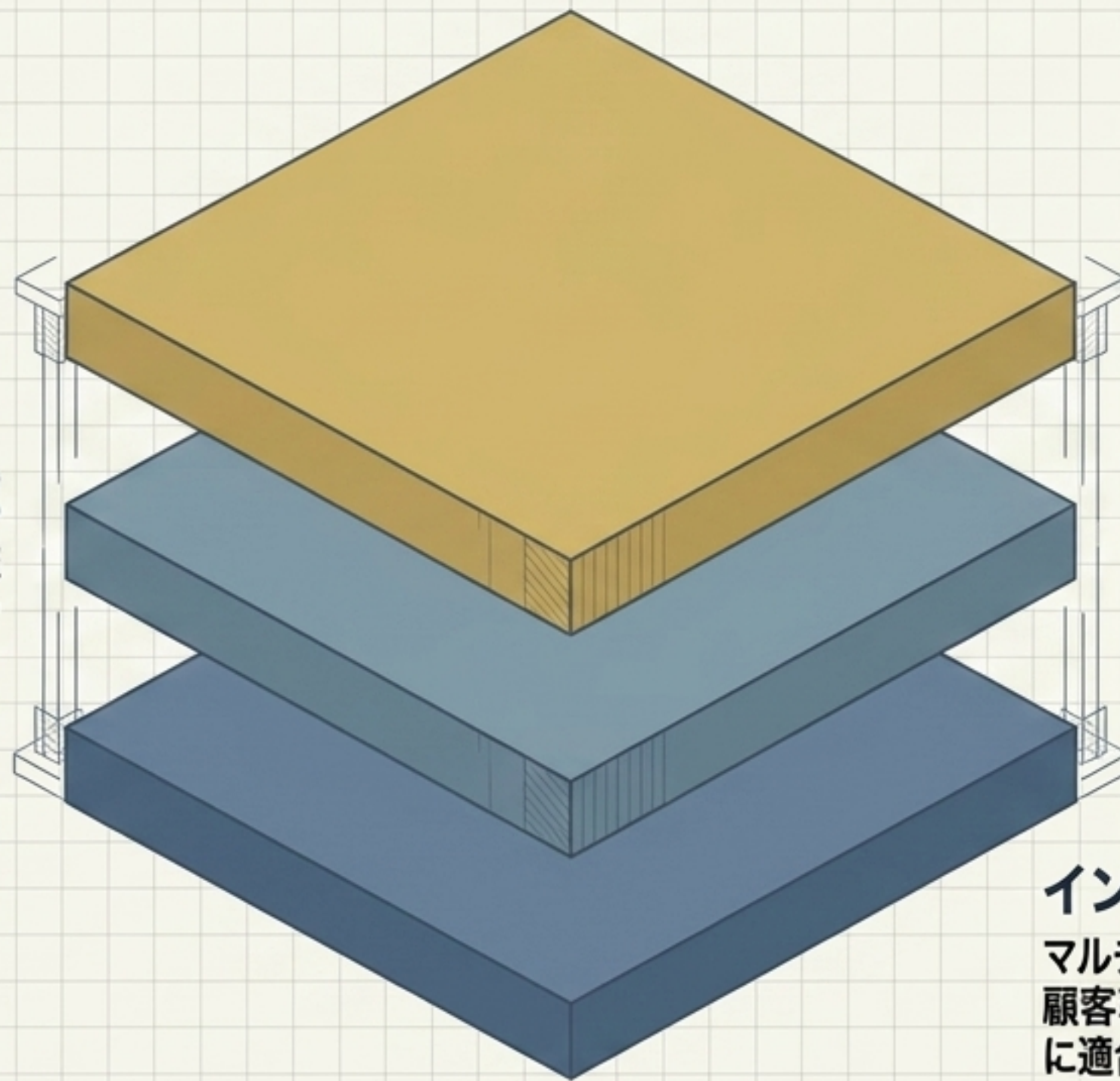
多面解析 (Multi-faceted Analysis)

社内研究データ、仕様書、社外の技術動向データをLLMが統合的に読み込み。

伴走型プロンプト (Interactive Probing)

「従来技術への優位性は？」「他部材への代替は？」「克服すべき課題の構造は？」など、知財視点での不足不足情報をAIが逆質問。

セキュアな内部データと高度な外部エコシステムを統合するアーキテクチャ



外部エコシステム連携

信頼性の高い外部データベースとの接続機能（日経 KAI、Denemeyer、Mistral AI 連携基盤）。

コアAI&データ統合

NTTグループが培った特許庁行政システム構築の知見と、最新の大規模言語モデル（LLM）の融合。社内の機密データ（仕様書・過去知財）との深い連携。

インフラストラクチャの柔軟性

マルチクラウド、プライベート環境、SaaS型から顧客専用AI基盤まで、高度なセキュリティ要件に適合する多様な展開モデル。

経綫モシステム構築

国内系グループが培った発表データ、仕様データが構築を知らず。丸々型モデル。や建設...並（仕様書メモ）の融合、データとLLMの深い連携。

知財DXの真の価値は「出口の自動化」ではなく「入口の構造化」にある

左：入口（発明の発掘・概念化） ← アプローチの焦点 → 右：出口（特許明細書・クレーム作成）

上：研究開発現場・経営 ↓ 主要ターゲット	NTTデータ（新サービス） 知的創造プラットフォームの構築。 R&Dと知財の連携、IPランドスケープ統合。	
	NTTドコモビジネス アイデアシート作成特化、現場の使いやすさ重視。	NEC、国内新興AI（Genzo AI, エムニ） 出願業務DX、明細書ドラフト生成、日本語表現特化。 グローバルスタートアップ（Patlytics, DeepIP, PatSnap） 圧倒的スピードの明細書自動生成、侵害リスク分析。

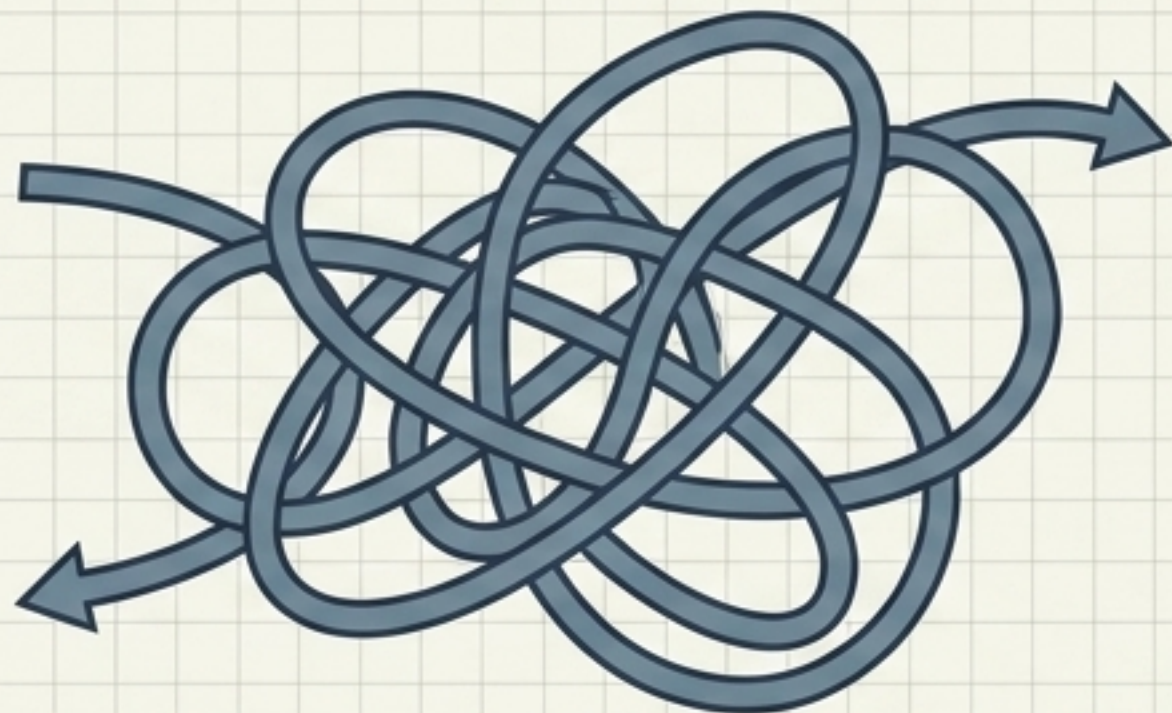
左：入口（発明の発掘・概念化） ← アプローチの焦点 → 右：出口（特許明細書・クレーム作成）

Strategic Insight

出願書類の作成（出口）は外部委託が可能だが、現場に潜む発明の種の構造化（入口）は内発的プロセスであり、ここに最大の企業価値が宿る。

第一次波及効果：言語化と確認作業に生じるオペレーションのボトルネックを根絶する

従来のアプローチ



提出された提案書の不備、技術用語の解釈ミス、多大な追加ヒアリングによる部門間の「ラリー」。開発者には事務負担としての徒労感。

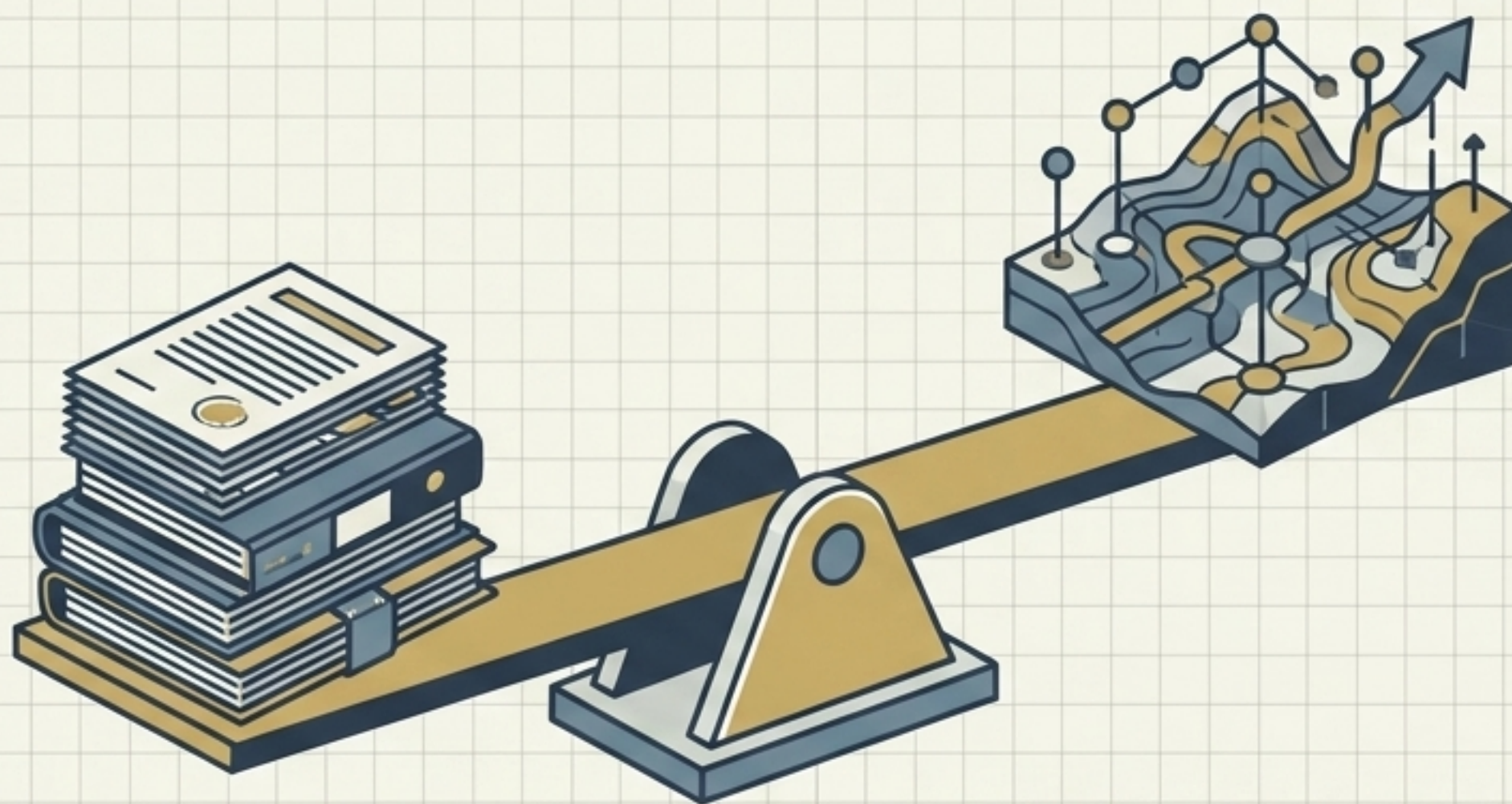
AI伴走型アプローチ



AIが開発者の定性的な発想を、客観的な「構成要件」へと事前に翻訳・整理。

【直接的成果】知財部門は、提案書を受領した瞬間に「権利化の可能性」「先行技術との相違」「上位概念化の可否」という本質的検討へ直行できる。

第二次波及効果：知財部門を事務処理からIPランドスケープの設計者へピボットさせる



ボツ案の戦略的活用

採用されなかったアイデアも
早期に秘匿管理(ノウハウ化)
や防衛出願へ回し、他社の
権利回避の先手を打つ。

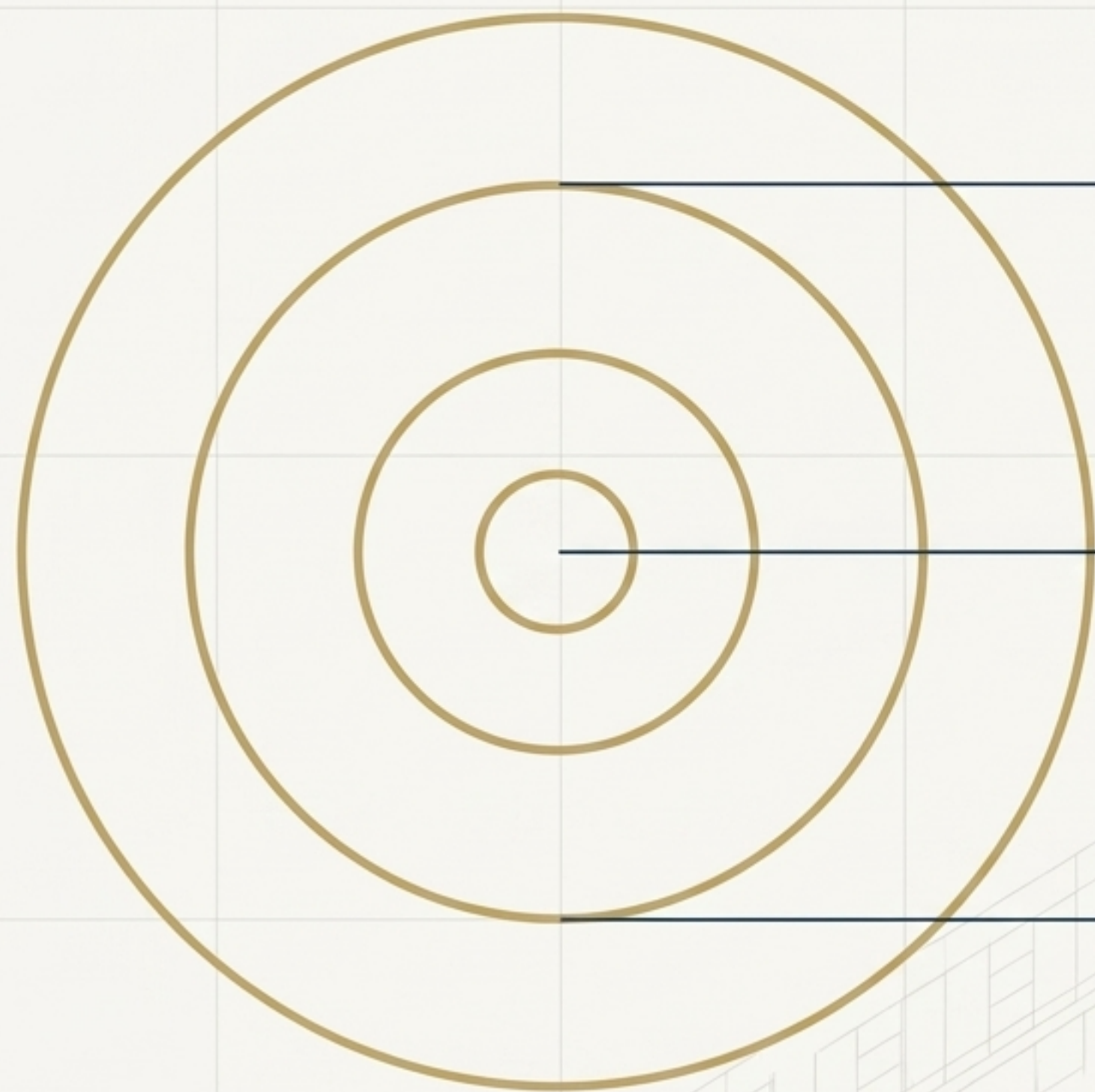
From: 事務的・受動的な手続き

出願件数の消化、提案書の不備チェック、
技術用語の翻訳作業に追われる「校正者」と
しての役割からの解放。

To: 戦略的な強い特許網の設計

AIが提示する代替手段や広範な概念定義を活
用し、市場動向や競合ポートフォリオを参照しな
がら、新規事業創出に資するIP ランドスケープ
をR&Dと並走して実践。

第三次波及効果：休眠特許を撲滅し、無形資産を通じた企業価値を最大化する



Operational Efficiency (R&D/IP Alignment)

出願前の段階でビジネス戦略・市場ニーズとの合致度を評価し、無駄な自己満足的特許の出願を抑制。

IP Strategy (Open Innovation)

未活用特許も初期からデータ構造化されるため、外部へのライセンスアウトやオープンイノベーションへの引き渡しコストが劇的に低下。

Corporate Valuation (Executive Decision Making)

暗黙知と権利化プロセスが可視化されることで、経営陣は自社の技術的優位性をリアルタイムで把握し、M&Aやアライアンスの迅速な経営判断が可能に。

NIKKEI KAIや海外最前線プロセスとの 統合による高度な意思決定の実現

NTTデータ
AI知財サービス

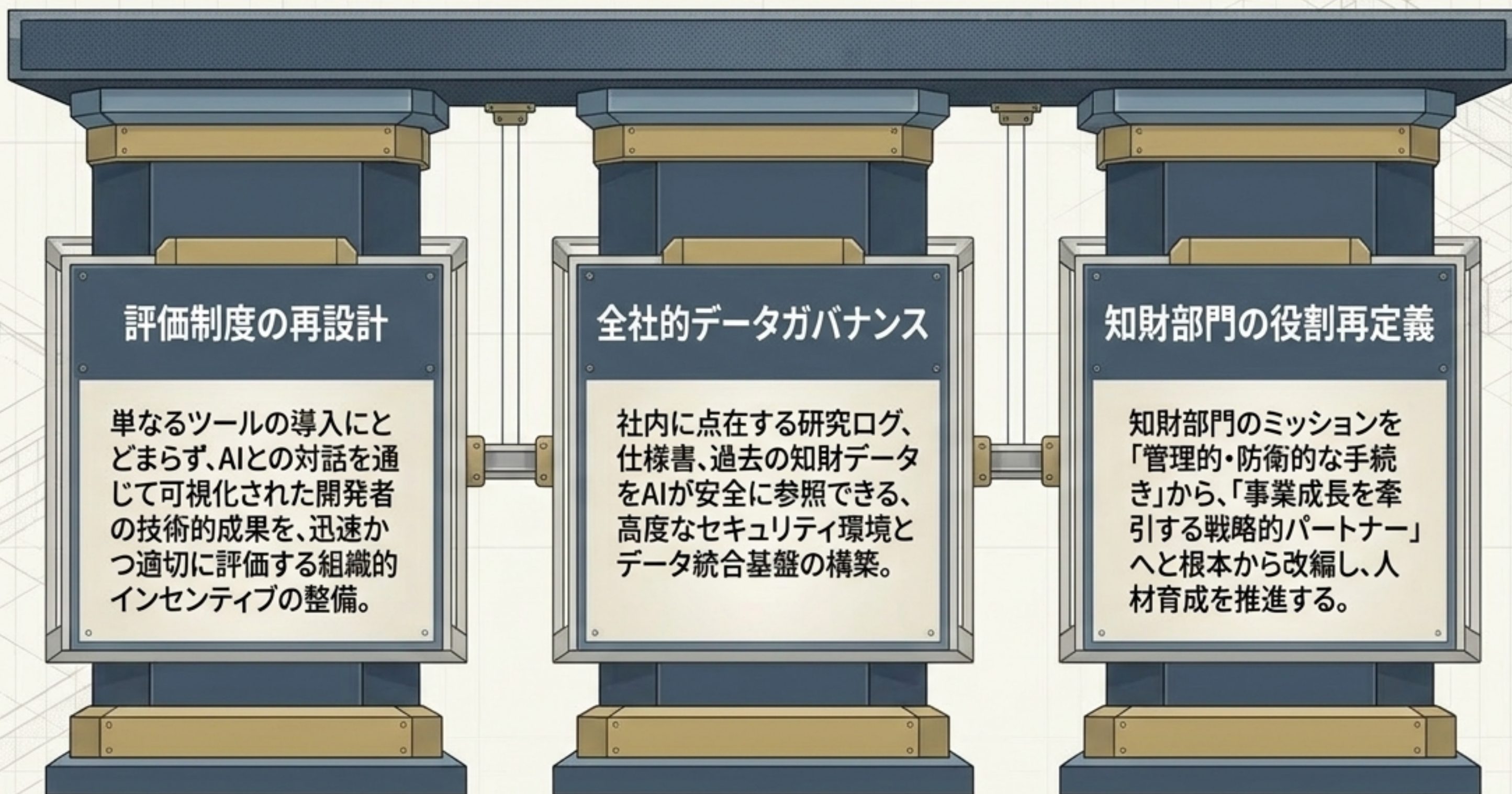
日本経済新聞社「NIKKEI KAI」連携 (2026年6月販売開始)

ハルシネーションを排除した信頼性の高い外部ビジネス情報・市場データを統合。特許技術が実際の市場ニーズやトレンドと合致するかを高精度に評価。

Denemeyer & Mistral AI 連携

次世代の知的財産管理プラットフォームや欧州最前線のAI技術と連携し、グローバル規模での強固な知財エコシステムを形成。

テクノロジーを真の競争優位に変えるための新たな組織・ガバナンス要件



結論：特許手続きの「管理」から、イノベーションの「設計」への移行

入口の制圧

人間にしかできない暗黙知の創出プロセスにAIを伴走させ、イノベーションの種を源流で構造化する。

組織的摩擦の解消

R&D、知財、事業部門、経営企画の4領域をAIデータ基盤でシームレスに接続し、共通言語を生み出す。

無形資産の極大化

160万件の休眠特許を生む古い構造を破壊し、知的創造サイクルを企業の持続的な競争優位性 (Moat) へと昇華させる。

本資料における出典および参考文献一覧

NTTデータ, AIを活用した発明発掘を支援するサービスを先行提供開始 (2026年8月19日)

特許庁行政システム構築および高セキュリティ環境基盤に関する知見 (NTTデータ)

DXマガジン, 160万件の休眠特許の現状とNTTデータのAI戦略

日本経済新聞社「NIKKEI KAI」連携発表 (2026年6月19日)

Denemeyer, 次世代知的財産管理プラットフォーム連携

知財DX市場・生成AIツール (Patlytics, Genzo AI等) に関する市場調査レポート (GrIP, ドクセル等)

※その他、R&D-知財連携およびIPランドスケープに関する業界インサイトに基づく。